

「アスナロウの木」の歌について

アスナロウの木ってどんな木なんだろう。聞きなれない言葉に、ちょっと調べてみることにした。インターネットの東京新聞版に詳細な記載があったので、以下に内容を紹介する。

■ 「気仙沼大島ゆかりの詩に曲 8月から「みんなのうた」放送：2014年6月3日

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/feature/tohokujisin/list/CK2014060302100015.html>

宮城県気仙沼市の離島、大島出身の詩人で児童文学者、水上不二（みずかみふじ）の詩「アスナロウの木」に東京の作曲家が曲を付け、NHKの「みんなのうた」で八月と九月に全国放送されることになった。東日本大震災の被災地ボランティアの輪の中から生まれた曲で、復興への思いを込めた。「全国からの支援へのお礼を、歌声で届けたい」と、同市大島小学校の児童らがコーラスに参加した。（五十住和樹）

水上は故郷の大島を「緑の真珠」と呼んで愛した。詩集「ぼくは地球の船長だ」に「アスナロウの木」という詩がある。根を伸ばし、葉を広げて自ら大きく育つアスナロウの木が、周囲に明るさや希望を振りまく姿を歌っている。

震災直後から大島で支援を続けている埼玉県三郷市のNPO法人代表理事保田全（あきら）さん（72）が、水上の詩を曲にして歌えたらと昨年五月、東京の音楽プロデューサー秋田新一郎さん（65）に詩集を送った。秋田さんは「復興への思いを乗せた未来志向の詩はこれしかない」と、アスナロウの木を選択。秋田さんのバンド「団塊の世代へ贈る唄」メンバーで、ギタリスト梅垣達志さん（68）が作曲した。ゆったりしたテンポで、子どもからお年寄りまでが口ずさめるメロディーに仕上がった。

同年八月、保田さんらが大島で企画した支援コンサートでこの曲を島民に披露。「気仙沼だけでなく全国の人に歌ってほしい」と、秋田さんらがNHK側に打診し、総合とEテレなどで連日放送される「みんなのうた」として制作された。

〈水上不二〉 1904年、気仙沼大島生まれ。児童文学者でもあり、北原白秋に影響され、37年に詩人のまど・みちおが同人として参加した童謡雑誌「昆虫列車」を刊行した。気仙沼市の小中学校8校の校歌を作詞。65年に死去するまで、数百編の詩と数多くの童話を書き残した。

■ 「アスナロウ」はどんな木

Weblio 辞書の植物名辞典によれば、

明日奈郎宇 読み方：アスナロウ（asunarou） アスナロの別称とある。

ヒノキ科の常緑針葉高木、園芸植物

アスナロ-Wikipedia には

ヒノキ科アスナロ属の常緑針葉樹。日本固有種。アスヒ（明日檜）とも。

常緑の高木で幹は直立して分岐し、高さ10-30m、直径90cmにもなる。

変種のヒノキアスナロは、青森県内で産出される木材を青森ヒバと呼んでいる。

青森ヒバは木曾ヒノキ、秋田スギと共に、日本三大美林とされている

（以上 文責 江川猛）



アスナロウの大木



アスナロウの葉
左は表、右は裏



青森ヒバ（ヒノキアスナロ）の花



青森ヒバは”すぐれもの”



・ヒノキ科の中での見分け方は、葉の裏の気孔線という白色の模様がヒノキでは Y の字型、サワラは X 型、アスナロウは広がっているという点で見分けがつくと言われている。
とくにアスナロウは「まるでスパイダーマンだらけ！」みたいな面白い形だと表現しているものもある。